耳かけ型補聴器

フォナック ボレロ

Phonak Bolero Q

取扱説明書

0459

PHONAK
life is on

はじめに

このたびはフォナック社の補聴器をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。

安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる方や他の方への危害･財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを下記のように説明しています。

■お守りいただく内容を次のように表示し、説明しています。

⃠ 禁止	この表示がある項目はしてはいけない「禁止」の内容です。

■表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次のように区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示がある項目は、「死亡または重症などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示がある項目は、「損害を負う可能性、または物的損傷のみが発生する可能性が想定される」内容です。

ご使用にあたって

⃠ 禁止

下記の項目に該当する場合は、補聴器を使用しないでください。

- 耳の治療中の方、耳の中や耳の後に痛みまたは炎症がある場合
- 過去90日以内に耳だれがあった場合
- 過去90日以内に突発性または進行性の聴力低下があった場合
- 過去90日以内に左右どちらかの耳に聴力低下があった場合
- 急性または慢性のめまいがある方

- 音量を大きくしすぎないでください。
- 騒がしいところでは音量を小さめにするか、長時間使用しないようにしてください。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないようにしてください。
- 補聴器は医療機器ですので、分解や改造はしないでください。
- レントゲン撮影、CTスキャンなどの画像診断機器は補聴器に悪影響を及ぼします。これらの機器を用いた撮影を受ける前には補聴器を外し、撮影室の外に置くことをお勧めします。
  またMRIスキャンは強い磁力を用いますので、MRI室に入る前には必ずお外しください。
- 過度の湿気や高温な場所は避けてください。特に夏場は、窓や車のフロントガラスの近くには置かないようにしてください。
- 補聴器の内部に水が入ると故障する恐れがありますので、水にぬらさないでください。M13タイプであっても強い水流を当てたり、水中に沈めたりしないでください。
- 電池は火中に投げ入れないでください。

⚠ 警告

- ペットのそばや子どもの手の届くところに保管しないでください。万が一、誤って電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師にご相談ください。電池の誤飲によって化学やけどを引き起こす可能性があります。

⚠ 注意

- 指向性マイクロホンが作動している場合は、主に背後から来る音を抑えます。そのため、装用者の背後に近づく車の音や背後で鳴るクラクション（警告音）が聞こえにくいことがあります。
- 補聴器を使用しない場合は電池を取り出してください。そして湿気を取り除くために電池ホルダーを開けたままの状態で乾燥ケースの中に保管してください。
- ご使用になるまでは電池のシールをはがさないでください。ご使用の際にシールをはがし、30秒ほど待ってからご使用ください。
- 使用済みの電池は、各自治体指定の方法により処分をしてください。
- 不要になった補聴器は、各自治体指定の方法により処分をしてください。

- 汗、湿気、皮脂、耳垢、整髪料などが補聴器内部に入ると故障する恐れがありますので、ご使用後はお手入れを行ってください。

下記の項目に該当する場合は、補聴器の使用をすぐに中止し、耳鼻咽喉科医または販売店へご相談ください。

- 耳の皮膚が赤くなったり、かゆみ・湿疹などが出た場合
- 耳だれが出てきた場合
- 耳の治療が必要になった場合
- 耳の聞こえが急に悪くなったと思える場合

ご使用になる前に

- 補聴器は聞こえを元にもどすものではなく、聴力を補う機器です。
- 使い始めは音量を小さめにして、慣れてきたら徐々に音量を調整してお使いください。
- 補聴器はお客さま専用に調整されていますので、他の人に貸したり、他の人の補聴器を装用しないでください。正しく調整されていない補聴器は効果がないばかりか、場合によっては耳を傷めたりする恐れがあります。
- 耳を治療中の方、治療をしたことがある方は主治医にご相談ください。
- 聴力の変化に伴い、補聴器の再調整が必要になる場合がございます。聴力測定を年に一度はお受けになることをお勧めします。

もくじ

本書の器種名の表記について 10
各部の名称 12
電池の交換方法 16
チャイルドロック付電池ホルダー（別売） 18
補聴器の使い方
　電源の入れ方／切り方 20
　補聴器を耳に装用する方法／耳から外す方法 21
　音量調節方法 24
　プログラム切り替え方法 27
ズームコントロール 29
イージーフォン 31
デュオフォン 32
ワイヤレスアクセサリーについて（別売） 34
防塵･防水性能に関する情報と注意 38
ご使用後のお手入れ方法 40
補聴器の保管 42
初めてお使いになる方に 43
故障かと思われたときは 44
仕様･性能 46
シンボルマークの説明 54
アフターサービス 55
保証について 56
プログラム設定表の使い方 59

本書の器種名の表記について

フォナック ボレロ Q には、形状とパワー、グレードの組み合わせで合計16種類の器種が存在します。
器種名の見方については以下をご参照ください。

例）フォナック ボレロ Q90 - M13

グレードを表します

上位器種から順に次の4通りとなります。

Q90 プレミアムクラス
Q70 アドバンスクラス
Q50 スタンダードクラス
Q30 エッセンシャルクラス

形状とパワーを表します。

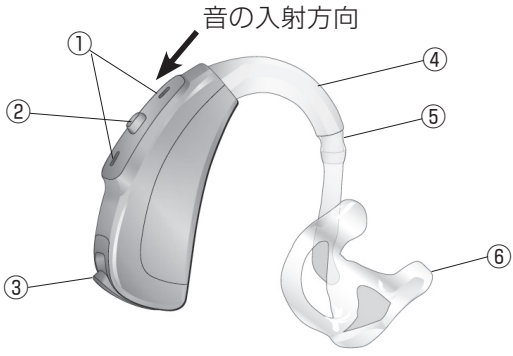
-M312　スタンダードタイプ
-M13　スタンダードタイプ
-P　パワータイプ
-SP　スーパーパワータイプ

本文中では、読みやすくするために器種名を一部省略しております。例えば、「フォナック ボレロ Q90」と表記されている場合、プレミアムクラスの「フォナック ボレロ Q90-M312、フォナック ボレロ Q90-M13、フォナック ボレロ Q90-P、フォナック ボレロ Q90-SP」の4器種を示します。
同様に「フォナック ボレロ Q-M13」は「フォナック ボレロ Q90-M13、フォナック ボレロ Q70-M13、フォナック ボレロ Q50-M13、フォナック ボレロ Q30-M13」の4器種を示します。

Memo

各部の名称

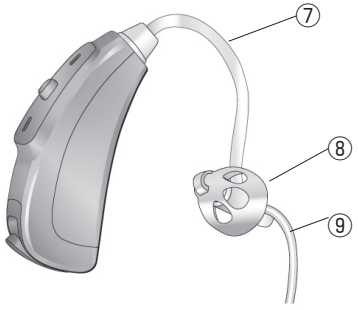
M312/M13＋イヤモールドの場合



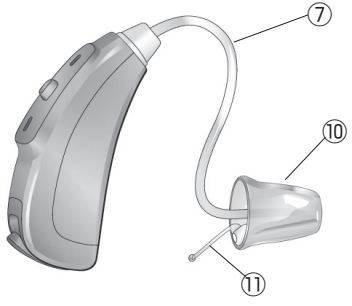
①マイクロホン音口（マイクカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③電池ホルダー（電源の入/切機能付）
④イヤフック（音の出口）
⑤チューブ
⑥イヤモールド（別売）

電池サイズ
M312：PR41（312）
M13　：PR48（13）

M312/M13＋オープン型耳せんの場合



M312/M13＋スリムチップの場合



⑦スリムチューブα
⑧オープン型耳せん
⑨ストッパー
⑩スリムチップ（別売）
⑪取り出し用テグス

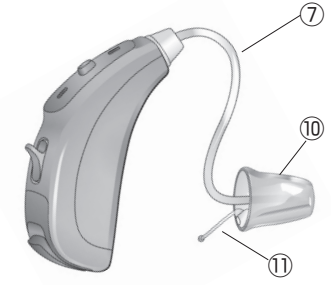
P/SP+イヤモールドの場合

①マイクロホン音口（マイクカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③ボリュームコントロール
④電池ホルダー（電源の入/切機能付）
⑤イヤフック（音の出口）
⑥イヤモールド（別売）

電池サイズ：PR48（13）

P/SP＋オープン型耳せんの場合

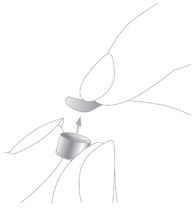
P/SP＋スリムチップの場合



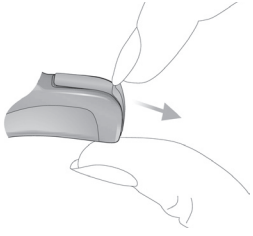
⑦スリムチューブα（別売）
⑧オープン型耳せん（別売）
⑨ストッパー
⑩スリムチップ（別売）
⑪取り出し用テグス

電池の交換方法

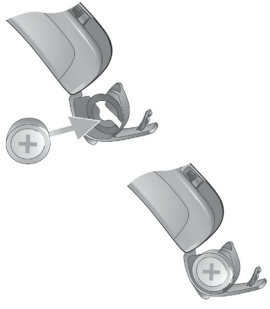
1. 新しい電池の保護シールをはがします。シールが貼ってある側が(+)面です。



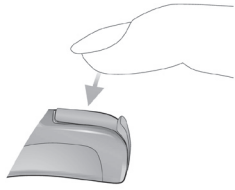
2. 電池ホルダーを開け、使用済みの電池を取り出します。



3. 新しい電池を入れます。電池の(+)面と電池ホルダーの+マークが同じ方向になるようにあわせます。



4. カチッと閉まるまで、電池ホルダーをゆっくり押します。



⚠ 注意

- 電池ホルダーは丁寧に扱い、無理な力を加えないでください。
- 電池ホルダーがうまく閉まらない場合には、電池が正しく収納されているか確認してください。電池がプラスマイナス逆向きに収納されている場合、きちんと閉まりません。

電池寿命お知らせ音

電池がなくなりかけると、お知らせ音（ピー、ピー）が鳴りますので、電池を新しいものに交換してください。（電池が使用できなくなる約30分前に鳴りますが、リモコンやワイヤレス機能を使用している場合は短くなるなど補聴器の使用状態によって異なります。）

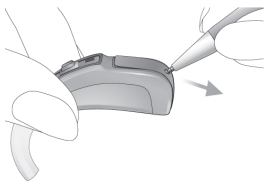
チャイルドロック付電池ホルダー（別売）

電池の誤飲などによる危険を防ぐため、この補聴器には別売のチャイルドロック付電池ホルダーを使用することができます。（M13 タイプのみ）

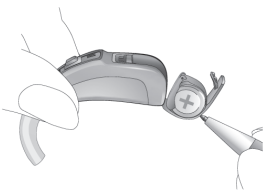
チャイルドロック付電池ホルダーを使用する場合、電池の交換は次の手順で行なってください。

①ペン先を図のように差し込みます。
②手前に引いて電池ホルダーを開きます。
③電池ホルダーを開き、ペン先などで電池を押し出します。
④電池の向き（+−）に注意して新しい電池をセットします。
⑤図を参照に、電池固定用のツメを押し込んで電池が外れないよう固定してください。
⑥電池ホルダーを閉じます。

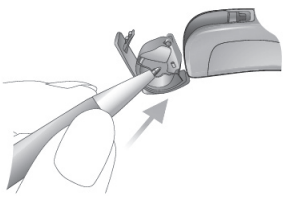
①



②



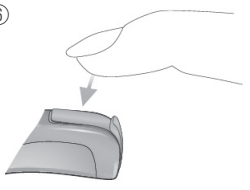
③



④

⑤

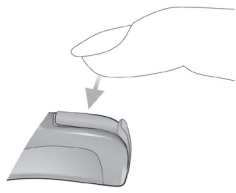
⑥



補聴器の使い方

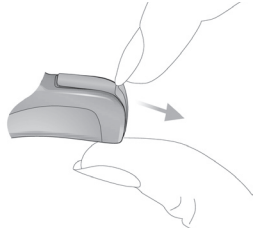
電源の入れ方

電池ホルダーを閉める



電源の切り方

電池ホルダーを開ける



ポイント

電源を入れると、補聴器はあらかじめ調節された音量とプログラムに自動的に設定されます。

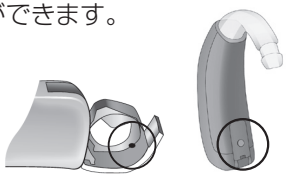
⚠ 注意

- 電源を入れてから音がでるまで約4秒かかります。スタートアップの遅延が設定されている場合、電源を入れてから約4秒後に一瞬音が出てから、さらに6秒後または12秒後に動作します。

装用の前に

左右を色で見分けることができます。

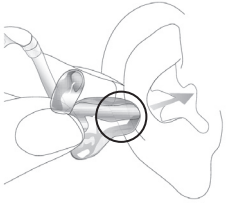
左耳用：青色
右耳用：赤色



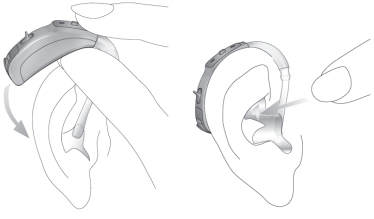
補聴器を耳に装用する方法

イヤモールドの場合：

1. 図のようにイヤモールドを持ち、そのまま耳の穴にイヤモールドを近づけます。



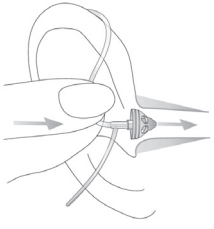
2. イヤモールドが完全に収まったら、補聴器本体を耳介の後ろにはめます。



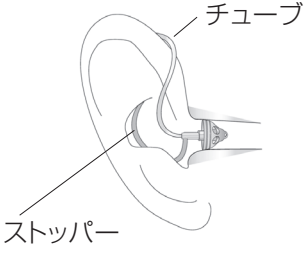
スリムチューブαの場合：

1. 耳の上部に補聴器をかけます。

2. チューブを図のように持ち、耳せんをゆっくり押し込みます。（図はオープン型耳せんとなっています。）



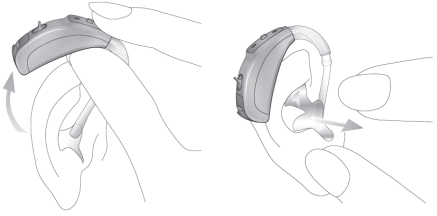
3. チューブのストッパーを図のように耳のくぼみに沿うようにはめます。チューブが耳から浮かないようにをしっかりとはめてください。



補聴器を耳から外す方法

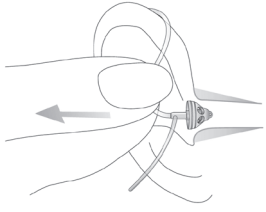
イヤモールドの場合：

チューブではなくイヤモールドをつかみ、ゆっくり耳から取り出します。



スリムチューブαの場合：

補聴器を耳から外すには、チューブの根元をつかみゆっくり耳から取り出します。



⚠ 注意

- ストッパーが長い場合は、少し切り取ることも可能です。その際、固定できないほど短くしないように十分気をつけてください。
- 耳せんは、チューブから外れないように作られていますが、万が一耳せんが中に入ってしまった場合には、医療機関にご相談ください。

M312/M13 の音量調節方法

フォナック ボレロ Q-M312とM13は、プログラムスイッチでボリューム調節を行うことが可能です。
プログラムスイッチで調整する場合、あらかじめ販売店にて設定されている必要があります。

フォナック ボレロ Q-M312とM13を片耳装用の場合、下記のいずれかに設定出来ます。(フォナック ボレロ Q30-M312/M13を除く)

	プログラムスイッチ機能
①	音量調節(上げる)
②	音量調節(下げる)
③	プログラム切り替え

※この場合、両耳装用時でも操作は片耳ずつとなります。
※フォナック ボレロ Q30-M312/M13で音量調節を行う際はリモコン(別売)が必須となります。

フォナック ボレロ Q90·Q70·Q50-RIC を両耳装用の場合は、下記の①～③のうちのいずれかに設定出来ます。

	右側のプログラムスイッチ	左側のプログラムスイッチ
①	音量調節（両耳上げる）	音量調節（両耳下げる）
②	音量調節（両耳上げる）	プログラム切り替え
③	プログラム切り替え	音量調節（下げる）

- ステップ数（増減幅）は設定により異なります。お求めの補聴器販売店にご確認ください。1ステップにつき2dB ずつ変化します。

P/SPの音量調節方法

音量を変更すると確認音が１回鳴り、電源を入れた時の音量になると低い確認音（ポッ）が1回鳴ります。音量が最大または最小に達した場合は、確認音が２回（ピポッ）鳴ります。

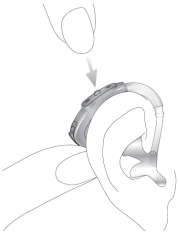
*リモコン（別売）で音量調節することも可能です。

プログラム切り替え方法

あらかじめマニュアルプログラムを設定している場合、手動で切り替えることが可能です。様々な環境プログラム以外に、電話、ミュートなどのプログラムが設定できます。

プログラムスイッチを押すたびにプログラムが切り替わり、確認音が鳴ります。

*リモコン（別売）でのプログラム切り替えも可能です。
*ミュート（無音）を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。



M 312 / M 13

P / SP

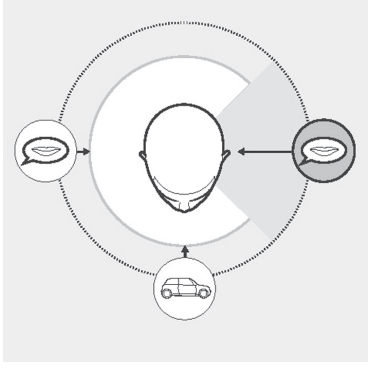
クイックシンク※（両耳装用の場合）

フォナック ボレロ Q90/70/50 を両耳装用される場合に、左右の補聴器同士が通信を行ない連動する機能です。片方の補聴器のボリュームやプログラムを操作するだけでもう一方の補聴器も同じ動作をします。

ズームコントロール

ズームコントロールは、前後左右にある聴きたい音の方向をご自身で選択できる機能です。例えば、車を運転しているとき、隣の人や後ろの人と会話をするときなど、相手に顔を向けることができないときに便利です。方向の切り替えはリモコン（別売）または、補聴器のプログラムスイッチにより行います。

※ズームコントロールは、ボレロ Q90 または Q70 を両耳装用した場合のみ使用できます。フォナック ボレロ Q90 の場合は、会話のある方向に自動的に切り替わるオート設定も可能です。詳しくは、お買い求めの販売店までお問い合わせください。



プログラムスイッチによる方向の切り替え

ズームコントロールの方向を切り替えるには、あらかじめ補聴器に設定しておく必要があります。プログラムおよびダイレクトタッチ機能の設定については販売店にご相談ください。

ダイレクトタッチ機能オンの場合

ダイレクトタッチ機能を使用すれば、希望する方向の補聴器のプログラムスイッチを押すだけでその方向に切り替えることが可能です。販売店にてプログラムに組み込んだズームコントロールのダイレクトタッチ機能をオンにしておくと、そのプログラムに切り替えた際にプログラムスイッチを押した補聴器の方向に切り替わります。ただしこの場合は、左右方向のズームコントロールの使用のみが可能になります。

ダイレクトタッチ機能オフの場合

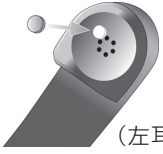
販売店にてあらかじめマニュアルプログラムの何れかにズームコントロールを組み込み、聞きたい方向を複数設定しておきます。ズームコントロールが組み込まれたプログラムを選択すると、あらかじめ設定された方向に切り替わります。設定された別の方向や、他のプログラムに切り替える場合は、適宜プログラムスイッチを押してください。この場合、プログラムの切り替えはリモコン（別売）でも可能です。

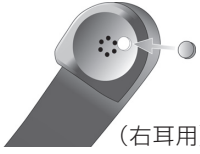
イージーフォン(M 312 は使用不可)

イージーフォンは、受話器を耳にあてると自動的に電話プログラムに切り替わる機能です。
切り替わる時、お知らせ音(ピポ)が鳴ります。
受話器を耳から離すと、数秒後に元のプログラムに自動的に戻ります。

イージーフォン用の磁石を取り付ける方法

受話器をきれいにし、図のような位置に専用の磁石を付属の両面テープで貼ります。


(左耳用)


(右耳用)

⚠ 注意

- 磁石で受話器の音が出る部分を覆わないようにしてください。受話器を近づけても切り替わらない場合は、磁石の位置を変更してください。
- 磁石は子どもの手の届かないところに保管してください。もし誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 磁石は、クレジットカードなどの磁気のあるものに影響しますので30cm以上離してください。

デュオフォン

デュオフォンは、電話プログラムを使用中に、左右の補聴器から同じ音を出す機能です。例えば、右側で電話の音声を補聴器で聞いている場合でも、左側の補聴器からも同じ音声が聞こえます。両耳で聞くことにより片耳の場合よりも電話の音声を聞き取りやすくなります。
イージーフォンと併用してご使用の場合は、受話器を補聴器に近づけると自動で切り替わります。
※デュオフォンは、フォナック ボレロ Q30 以外を両耳装用されている場合に設定可能です。

1. イージーフォンを併用する場合の操作

電話する側	操作方法
右側	磁石のついた受話器を右側の補聴器に近づけてイージーフォンに切り替えます。 イージーフォンが作動している間は、電話の音声が左側の補聴器にも同時に送信されます。
左側	磁石のついた受話器を左側の補聴器に近づけてイージーフォンに切り替えます。 イージーフォンが作動している間は、電話の音声が右側の補聴器にも同時に送信されます。

2. イージーフォンを併用しない場合の操作

販売店にて、あらかじめ補聴器に設定したプログラム内容により操作方法が異なります。以下の設定1～3の電話プログラムの設定が可能ですが、どの設定で使用するかは販売店にご相談ください。

設定	ダイレクトタッチ※	電話する側	操作方法
1	オン	右側	右側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。右の電話の音声が同時に左側の補聴器に送信されます。
		左側	左側の補聴器のプログラムスイッチで電話プログラムに切り替えます。左の電話の音声が同時に右側の補聴器に送信されます。
2	オフ	右側	左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム（右側設定）に切り替えた場合は、右側から入る電話の音声が同時に左側の補聴器に送信されます。
3	オフ	左側	左右どちらの補聴器のプログラムスイッチを押しても、電話プログラム（左側設定）に切り替えた場合は、左側から入る電話の音声が同時に右側の補聴器に送信されます。

※ダイレクトタッチは、電話を聞き取りたい側のプログラムスイッチを押せば切り替えられる便利な機能です。

ワイヤレスアクセサリーについて（別売）

1. デジタルワイヤレスアクセサリーについて

補聴器の音量調節やプログラム切り換えを行ったり、電話や騒音下での会話、テレビや音楽を楽しむ時など、さまざまな状況下であなたの補聴器の機能を追加することが出来るデジタルワイヤレスアクセサリーが利用可能です。

リモコンを使用すれば、補聴器の音量調節やプログラム切り換えがワイヤレスで行えます。また同様に、MP3プレーヤーなどのオーディオ機器やテレビ·携帯電話を接続して、音声をワイヤレスで補聴器に送ることも可能です。音声入力の方法はBluetooth や外部入力端子があります。

- Bluetooth®はBluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

2. Roger および FM システムについて

話し手と聞き手の距離が離れた広い場所や周囲の声が行き交う公共の場所など、補聴器を利用しても聞き取りが困難な環境があります。そんな時に役立つのが Roger および FM システム（FM）です。遠くにいる話し手の声をキャッチし電波を用いて音声を送ることで、快適な聞き取りを実現します。

送信機：マイクロホンを話し手の口元やスピーカーの近くに設置、もしくは外部入力に音源を接続します。

受信機：一体型は補聴器に取り付けて使用します。オーディオシューを介して、ユニバーサルタイプの受信機も使用できます。
Tコイル利用型はネックループを首からかけて使用します。M312 タイプのみ、ユニバーサルタイプ受信機とフォナック コムパイロットが必要です。

これらの機器を使用する際は補聴器の設定およびプログラム切り換え操作が必要な場合があります。
詳細についてはそれぞれのカタログ、または取扱説明書をご覧ください。

防塵・防水性能に関する情報と注意

フォナック ボレロ及び対応アクセサリーの一部には、防塵防水性能が備わっています。この性能を維持するため、以下の注意点をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

IP等級	搭載製品
IP67	フォナック ボレロ Q -M13 Roger受信機 Roger 15 FM受信機 ML15i
IP57	フォナック ボレロ Q -M312 / P / SP Roger受信機 Roger 16

一般的な注意点

ヘアスプレーやその他の化粧品を使用する場合、補聴器のききとりに影響が発生する可能性がありますので、耳から取り外した後にヘアスプレー等をご使用ください。

使用上における注意

- 補聴器は電池ホルダーが完全に閉じた状態でのみ防塵･防水性能を担保します。髪の毛等が挟まれないように電池ホルダーを完全に閉じてご使用ください。
- 汗や埃が多くついてしまった場合、M13タイプはきれいな水で洗い流し自然乾燥させてください。その他の器種は、乾いた布等できれいに拭き取り乾燥ケースに入れて乾燥させてください。(このときドライヤーは使用しないでください)
- 日頃のケアや定期的な点検に関しては、以下をご参照ください。
  - スキューバダイビング、潜水、水上スキーやその他の水上でのアクティビティをされる前には補聴器を取り外してください。
  - 補聴器に水が付着することで電池への空気供給が制限されて一時的に補聴器の動作が止まることがあります。その場合は、柔らかい布もしくはティッシュで水分を拭き取り、濡れていないことを確認してから、電池ホルダーを開けて空気を供給してください。
  - Roger受信機 Roger15/16、FM受信機ML15i は、この補聴器に接続した状態でのみ防塵･防水性能を担保します。受信機単体では、防塵･防水機能が保持されませんのでご注意ください。
  - オーディオシューAS15/16を使用したときは、防塵･防水性能は保持されませんのでご注意ください。

- 防塵･防水機能を維持するために、異常の有無にかかわらず一年に一度のメーカーによるメンテナンスをおすすめします。

ご使用後のお手入れ方法

補聴器を長くお使いいただくために、日ごろからのお手入れをお勧めします。

＜毎日のケア＞
イヤモールドやチューブに水滴や耳垢が詰まっている場合は取り除き、本体を汚れが付いていない布で拭き、乾燥ケースの中に入れて保管してください。

＜毎週のケア＞
補聴器にひどい汚れが付いている場合は、濡れたやわらかい布できれいに拭き取ってください。より精密に確認したい場合は、販売店にご相談ください。

＜毎月のケア＞
チューブが変色したり硬くなっていないか確認して、もし硬くなっているようであれば交換してください。

＜マイクカバー＞
マイクカバーは、フォナック ボレロの高性能なマイクを埃から保護するように設計されております。
マイクカバーは必要に応じて交換できます。
お買い求めの販売店にお尋ねください。

⚠ 注意

- 補聴器をお手入れする際に、家庭用洗剤（石鹸、洗剤粉など）は絶対にご使用にならないでください。
- チューブに水滴が残る危険があるため、チューブとオープン型耳せんを水で洗ったり、水中に入れたりしないようにしてください。
- 水滴がチューブに残っていると、音がでない、または補聴器の電気部分が壊れる恐れがあります。
- チューブとオープン型耳せんは3ヶ月に1回のペースで交換してください。また、チューブが硬くなったり、もろくなってきた場合はすぐに交換してください。
- オープン型耳せんは販売店でのみ交換できます。耳に装用している時にチューブからオープン型耳せんを外さないでください。耳を傷つける恐れがあります。

補聴器の保管

通常の保管方法：
電池ホルダーを開けたまま補聴器を乾燥ケースに入れてください。

携帯する場合：
電池ホルダーを開けたまま補聴器を専用ケースに入れてください。
長期間補聴器をご使用にならない場合は電池を取り外しておいてください。

⚠ 注意

- 補聴器から必ず電池を取り出してください。
  補聴器から取り出した電池は乾燥ケースに入れないようにしてください。

初めてお使いになる方に

第一段階
初めは静かな家の中などで使用し、補聴器をつけることに慣れてください。最初は自分の声に違和感がありますが、本などを声に出して読んだりして違和感がなくなるまで練習します。練習は10分ほどから始めて徐々に長くしますが、疲れたらすぐ休んでください。

第二段階
静かな部屋で、身近な人と一対一で話す練習をしましょう。

第三段階
複数の身近な人と話をする練習をします。どの人が話をしているか聞き分けてみましょう。

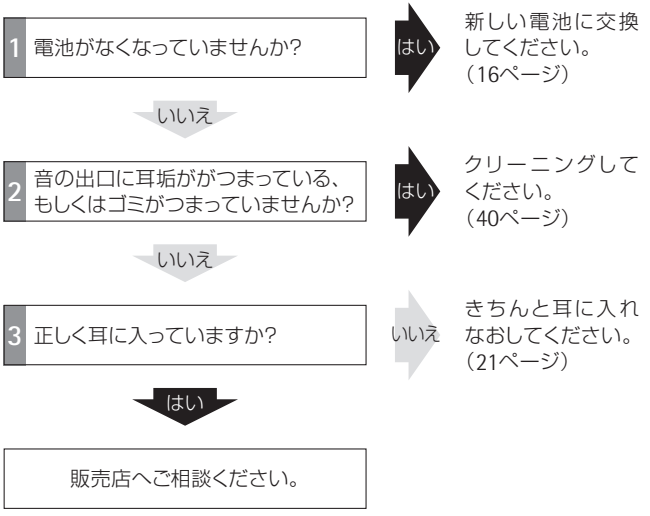
第四段階
慣れてきたら、外で聞く練習をします。

⚠ 注意

- 補聴器の音が小さかったり、周囲の音が大きく感じたりしたら販売店にご相談ください。補聴器の再調整が必要となります。

故障かと思われたときは

補聴器が聞こえづらくなったときは、まず下記のようにお調べください。



Memo

仕様・性能

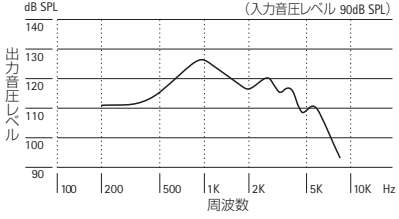
※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により、スリムチューブαで測定・表示してあります。

フォナック ボレロ Q90-M312
フォナック ボレロ Q70-M312
フォナック ボレロ Q50-M312
フォナック ボレロ Q30-M312

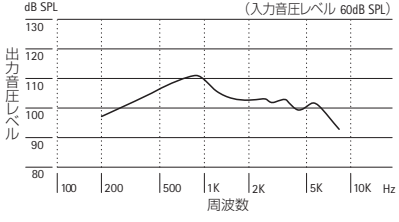
適応聴力範囲	軽中
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得（50dB入力）	53 dB ±5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	120 dB ±5 dB（1600Hz） 132 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz　4.0% 以下 800 Hz　3.0% 以下 1600 Hz　3.0% 以下
電池の電流	1.50 mA 以下
使用電池	PR41（312）
電池寿命	90～130時間
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
※フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況・気温・湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス



規準周波数レスポンス



仕様・性能

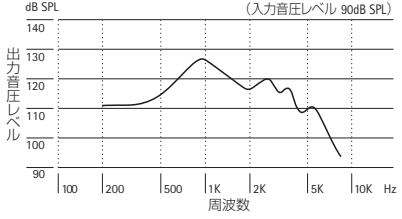
※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により、スリムチューブαで測定・表示してあります。

フォナック ボレロ Q90-M13
フォナック ボレロ Q70-M13
フォナック ボレロ Q50-M13
フォナック ボレロ Q30-M13

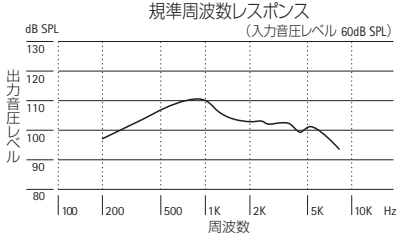
適応聴力範囲	軽中
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得（50dB入力）	53 dB ±5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	120 dB ±5 dB（1600Hz） 132 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz　4.0% 以下 800 Hz　3.0% 以下 1600 Hz　3.0% 以下
電池の電流	1.50 mA 以下
使用電池	PR48（13）
電池寿命	140～220時間
誘導コイル感度	84 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ1 mA/m ループに対して垂直の時最大）
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
※フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況・気温・湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

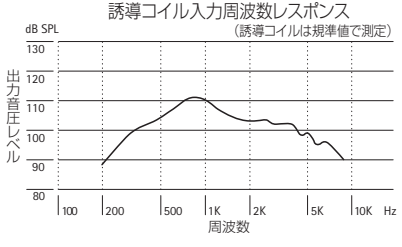
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス



規準周波数レスポンス



誘導コイル入力周波数レスポンス



仕様・性能

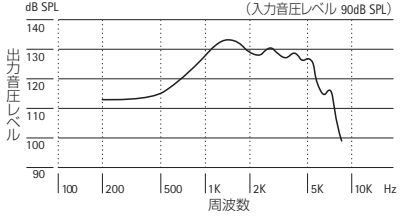
※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳によりイヤフック HE10 680 で測定･表示してあります。

フォナック ボレロ Q90-P
フォナック ボレロ Q70-P
フォナック ボレロ Q50-P
フォナック ボレロ Q30-P

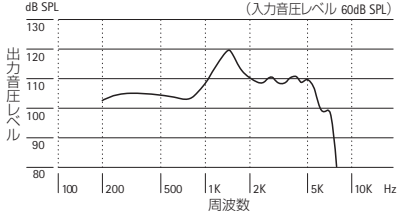
適応聴力範囲	軽中高
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得（50dB入力）	68 dB ±5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	132 dB ±5 dB（1600Hz） 139 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz　4.0% 以下 800 Hz　3.0% 以下 1600 Hz　3.0% 以下
電池の電流	1.80 mA 以下
使用電池	PR48（13）
電池寿命	130～200時間
誘導コイル感度	101 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ1 mA/m ループに対して垂直の時最大）
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
※フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

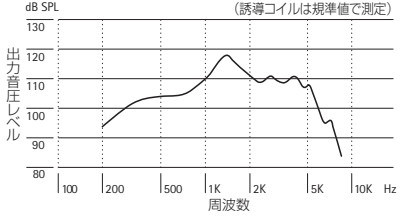
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス



規準周波数レスポンス



誘導コイル入力周波数レスポンス



仕様・性能

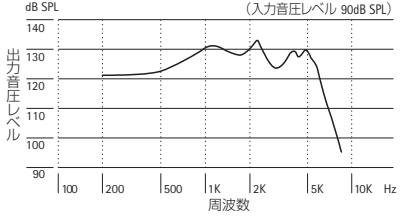
※本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳によりイヤフック HE10 680 で測定･表示してあります。

フォナック ボレロ Q90-SP
フォナック ボレロ Q70-SP
フォナック ボレロ Q50-SP
フォナック ボレロ Q30-SP

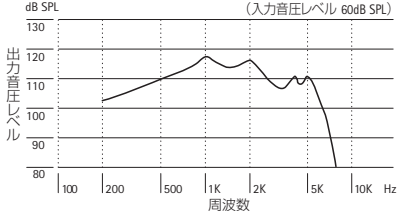
適応聴力範囲	中高重
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得（50dB入力）	69 dB ±5 dB
90dB 最大出力 音圧レベル	129 dB ±5 dB（1600Hz） 140 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz　4.0% 以下 800 Hz　3.0% 以下 1600 Hz　3.0% 以下
電池の電流	1.80 mA 以下
使用電池	PR48（13）
電池寿命	130～200時間
誘導コイル感度	99 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ1 mA/m ループに対して垂直の時最大）
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階

※本カタログに掲載された電池寿命:JIS規格に基づいて測定した電流値から換算した参考値です。
※フォナック純正電池を使用したときの目安です。ご使用の状況･気温･湿度などの環境の影響によって電池寿命は大幅に変わります。

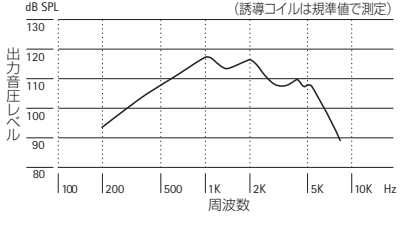
90dB 最大出力音圧レベル周波数レスポンス



規準周波数レスポンス



誘導コイル入力周波数レスポンス



シンボルマークの説明

CE
0459

CE 記号は、アクセサリー類を含む製品が医療機器指示文93/42/EEC とR&TTE 指示文199/5/EC のラジオと通信機器･送信機の基準を満たしていることを示しています。CE 記号に続く番号は、フォナック社に対し指導した公認機関コードを表します。

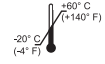
この記号は、取扱説明書に載っている製品説明がEN60601-1のタイプB に則っていることを表します。

この記号は、補聴器を使われる人が取扱説明書に書いてある内容を読み理解してもらうことが大事であることを示しています。

ゴミ箱に×印の記号は、通常と異なるごみ処理が要求される可能性があることを意味します。処分される際はお住まいの自治体が定める方法に従ってください。

この記号は、製造工場が医療機器指示93/42/EECの基準を満たしていることを示しています。

この記号は、製品の輸送、保管時に水濡れ厳禁であることを示しています。



この記号は、製品の輸送、保管時の周囲温度が-20℃から60℃の間でなければならないことを 示しています。

この記号は、製品の輸送、保管の環境が湿度90%以下でなければならないことを示しています。

アフターサービス

1. 保証書（別途添付）

必ず「販売店名」、「お買い上げ日」、などの記載をお確めになり、大切に保管してください。

2. 修理について

保証書を一緒に販売店へお持ちください。保証書に記載された内容に応じて修理いたします。

3. その他

アフターサービスなどについてのご不明な点は、お求めの販売店までお問い合わせください。

この取扱説明書の内容は2015年2月現在のものです。各製品の仕様は予告なく変更される場合がございます。

※この補聴器は耳を保護する目的で出力 125dB SPL 以下、利得 30dB 以下に設定し出荷いたしております。

保証について

日本国内における保証期間

日本国内における本製品の無償保証期間は、お買い上げ日よりフォナック ボレロ Q90 は3年間、その他の補聴器は2年間です。無償修理の際、保証書が必要になりますが、製品に同梱されている保証書に「販売店名」、「お買い上げ日」の記載があることを確認の上、大切に保管してください。

日本国外における保証期間（国際保証）

日本以外の国における本製品の無償保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証対象は、シェル、アクセサリーパーツ、電池、耳せん、外部レシーバを除く補聴器本体となります。国際保証書に「販売店名」、「お買い上げ日」の記載があることを確認の上、大切に保管してください。

当規定は上記の修理保証規定により交換･修理をお約束するものであり、法律上のお客様の権益を制限するものではありません。

保証適用除外

お客様または第三者の誤った使用･過失･改造による故障および損傷に対しての修理に関しては、保証期間内であっても保証適用外となります。修理は、フォナックが指定するサービスセンターでのみ行ってください。

また、補聴器の専門家による補聴器の調整やアフターケア等のサービスに対しても、保証対象ではありません。

Service Policy and Warranty

Local Warranty

Please ask the hearing care professional, where you purchased your hearing aid, about the terms of the local warranty.

International Warranty

Phonak offers you a one year limited international warranty valid starting from the date of purchase. This limited warranty covers manufacturing and material defects in the hearing aid itself, but not accessories such as batteries, tubes, ear modules, external receivers. The warranty only comes into force if a proof of purchase is shown. The international warranty does not affect any legal rights that you might have under applicable national and legislation governing sale of consumer goods.

Warranty Limitation

This warranty does not cover damage from improper handling or care, exposure to chemicals or undue stress. Damage caused by third parties or non-authorized service centers renders the warranty null and void. This warranty does not include any services performed by a hearing care professional in their office.

Memo

プログラム設定表の使い方

設定表は、販売店が設定したプログラム内容を記入できるようになっています。
（例えば、「電話モード」がどのプログラムに入っているのかがわかります。）

購　入　日: _____

電池の種類: _____

プログラム設定表

プログラム※1	設定内容	確認音※2
自動プログラム	環境変化による 自動切り換え	短いメロディー
プログラム1		“ピ”（・）
プログラム2		“ピピ”（・・）
プログラム3		“ピピピ”（・・・）
プログラム4		“ピポ”（・・）
プログラム5		“ピポポ”（・・・）
イージーフォン		“ピポ”（・・）
イージーFM		“ピポ”（・・）
ミュート※3		確認音なし

※1 フォナック ボレロ Q70 は、プログラム4まで設定可能です。
　フォナック ボレロ Q50 は、プログラム3まで設定可能です。
　フォナック ボレロ Q30 は、プログラム2まで設定可能です。
※2 確認音は消すことも可能です。
※3 ミュート（無音）を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。

販売店名

製造販売業
フォナック・ジャパン株式会社

〒141-0031
東京都品川区西五反田5-2-4
レキシントン・プラザ西五反田

TEL 0120-06-4079
（お客様相談窓口）

FAX 0120-23-4080

www.phonak.jp

許可番号 13B2X10021　認証番号 224AABZX00176000

029-0235-17/V3/201502
Printed in Japan ©Phonak AG All rights reserved